

## 小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社 第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

### 第3学年 題材1「音楽で心をつなげよう」

♪ 友だちへの思いをこめて歌いましょう。

「友だち」(1.5時間)

#### ●今 何をする?●

★歌詞を心の中で読んだり、指導用CDの範唱を聴いたりしながら、曲想をつかみます。

★拍打ちや旋律のリズム打ちをしたり、感じ取ったことを簡単な体の動きで表現したりします。

☆電子黒板やプロジェクターなどを用意し、歌詞や曲の感じをクラス全員で共有できる場面をつくりまします。手話用の言葉のカードを作っておくとよいでしょう。

#### 1 見て、聴いて

##### ◎「どんな言葉、どこの旋律が気に入ったかな？」

(1) 歌詞の内容と曲想の関わりに関わり、聞き取ったり感じ取ったりしたことを共有する。

- ・歌詞を何回か黙読し、教科書の気に入った言葉に線を引いたり、教科書の余白に歌詞や指導用CDを聴いて感じ取った曲想を書いたりする。例) 優しい、ワクワクするなど
- ・指導用CDを聴いたり、拡大した歌詞を指しながら自分の好きな言葉に手を挙げたりして、友達と共有できる場面もつくるようにする。曲想も共有できるように、児童の感じ取った言葉を教師が黒板に書き出すとよい。

(2) 指導用CDを聴いて、旋律の特徴と曲想との関わりに関わり。

- ・指導用CDを数回聴き、自分の気に入った旋律のところで頭に手を乗せる等の体の動きで、友達と気付いたことを共有できるようにする。また、旋律を覚えたらカラオケのCDをかけて心の中で歌ってみる。

#### 2 聴いて、動いて

##### ◎「音楽に合わせて体を動かしたり、手話をしたりしながら歌ってみよう！」

(1) 指導用CDを聴きながら体を動かし、前半と後半の曲想の違いを感じ取る。

- ・前半と後半とのピアノ伴奏の違いに関わり、前半のなめらかな感じは体を横に、後半の少し弾んだ感じは軽く膝の上で手を打つなど体を動かすようにする。また、教師も一緒に動き、フレーズや音の高さに合わせて手で旋律線を描くようにする。(互いがぶつからないようにスペースを取り、動作をする人と見る人を分けるとよい。)

(2) 拍を打ったりリズム打ちしたりして、旋律を覚える。

- ・指導用CDを聴き、拍打ちしながら体を動かして旋律を覚えるようにする。また、教科書の8分休符を○で囲み、曲の感じを生かしたりリズム打ちができるようにする。リズム打ちは全員やリレー形式等工夫すると楽しい。手拍子は優しく打ち、旋律をよく聴くようにする。

(3) 指導書研究編巻末にある手話を参考にする。

「きみのこと」「しらなかったよ」「おなじ」などの歌詞カードを黒板に貼り、教師が示しながら体の動きを付けて心の中で歌う。難しい場合は「わらう」「とき」「はしる」「うたう」など身近な言葉のみを扱ってもよい。

#### ●評価●

**知** 旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに関わり。

**思・判・表** 歌唱表現の知識を得たり生かしたりしながら、前半と後半の曲の特徴を捉えて体の動かし方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

#### ●これからどうする?●

児童が今まで経験した手話の歌をCDで合わせたり、「友だち」も手話でもできるようにしたりして、声を出して歌える時にみんなで楽しく歌えるようにしましう。

### 第3学年 題材2「歌って音の高さをかんじとろう」

♪ 音の高さに気をつけながら、歌ったりひいたりしましょう。「ドレミで歌おう」(0.8時間)

#### ●今 何をする？●

★音の高さを確かめながら歌詞やドレミで歌い、ハ長調の楽譜を見て視唱する活動を進めます。  
楽器を演奏することはできませんが、机の上で、指くぐりや指またぎの練習をして運指を覚えるようにします。

★「新しく覚えること」を見ながら、ト音記号や小節など様々な記号の名前を覚えます。

☆掲示の用意をするもの…付属品のドレミ風船・指番号・五線上の音符の位置を覚えるための絵

☆電子黒板またはプロジェクター、音楽授業支援DVD、二次元コード

#### 1 見て、聴いて

##### ◎「楽譜をよく見て心の中で歌おう！」

(1) 曲名を確認し、歌詞を黙読する。

・階名が書かれていない部分を「ドレミ」で読んでみようと言問する(心の中で読む、小さな声で読む)。白抜き文字の部分で確かめたり、教師が旋律を弾いたり指導用CDを聴いたりして、旋律の動きや繰り返しに気付く、階名を読めるようにする。階名を直接、教科書に書き入れてもよいことにする。

・音の高さを確かめながら、歌詞や階名を心の中で歌う。

(2) 音の高さを確かめながら、読譜に慣れる。

・旋律を覚えたら、p.9の音階を指さしながら心の中で歌うようにする。教師が旋律を弾き(初めはゆっくり→だんだん速くしていく)、となりの友達と4小節交代、2小節交代にしたりするなど、声には出さずに、目で互いに確認しながら楽しんで活動できるようにする。  
・音程感覚をさらに育てるために、ドレミ風船を活用し指でたどるようにしたり、立って体を使って動いたりする活動も取り入れる。(クラスの人数や教室の空間に配慮をする。)

#### 2 動いて、描いて

##### ◎「楽譜にもっと親しもう！」

(1) 階名とト音譜表に親しむ。

・五線上の音符の位置を覚える手の絵(※別紙1)を掲示し、教師と一緒に、児童が自分の手で「だんごはミソシレファ」、サンドイッチは「レファラドミ」と心の中で唱えながら繰り返すようすると覚えやすい。

・教科書のハ長調の音階を4分音符で書いたり、ト音記号を書いたりしながら楽譜に親しむ。4分音符は棒の向き、ト音記号は書き出しの位置(ソの音)などに気を付けるようにする。(音楽授業支援DVDの「音符の書き方」を見たり、ト音記号は書き始める前に教師が黒板にゆっくり書き、児童と一緒に空中に書く練習をしたりしてから教科書に書くとよい。)

(2) 音楽授業支援DVDや二次元コードを活用し、「指またぎ」「指くぐり」を理解する。

・黒板に拡大した指番号の絵(※別紙2)を掲示し、運指を確かめながら、何回も机の上で練習をする。

・音がなくても友達と確認し合ってサインを出したり、教師がシールやスタンプを押したりするなど、児童一人一人が達成感を味わえるように工夫したい。

#### ●評価

**技** ハ長調の楽譜を見て視唱する技能を身に付けている。

#### ●これからどうする？●

この機会に、児童の気付きを大切にしながら、読譜学習の意欲を高めるようにし、記号や音符を書く活動を継続していくことが大切です。

### 第3学年 題材2「歌って音の高さを感じよう」

♪ 音の高さに気をつけて、明るい声で歌いましょう。 「春の小川」(1時間)

#### ●今 何をする?●

★指導用CDの範唱を聴いて春の様子を思い浮かべたり、階名に親しみ、旋律の音の動きを感じ取ったりする学習を中心に進めます。

☆電子黒板やドレミ風船を活用し、音の高さを可視化し、拡大楽譜を用いて階名を読むことに興味・関心をもてるようにします。

#### 1 見て、聴いて、感じて

##### ◎「情景を思い浮かべ、旋律の特徴に気づき、心の中で歌おう」

- (1) 指導用CDの範唱を聴き、歌詞の表す情景を思い浮かべ、曲想をつかむ。
  - ・春の様子を表している歌詞と明るい曲想が関わっていることに気付くようにする。
  - ・写真や挿絵を見て、身近な春の景色を思い起こす。
- (2) 教科書の楽譜を見て、フレーズごとの旋律の特徴に気付く。
  - ・4分音符の連続、旋律の反復、似ている部分、異なる部分に気付く。
- (3) 音の高さに気を付けて心の中で歌う。
  - ・手や指を動かすなど体の動きを使ったり、ドレミ風船を活用したりして音の高さを表し、指導用CDの範唱を聴きながら心の中で歌う。

#### 2 聴いて、書いて

##### ◎「音の高さに気を付けて、心の中で階名視唱しよう。」

- (1) 旋律の反復や変化、特徴を確かめながら階名を書く。
  - ・自信をもって読める階名などは書かないようにし、書いた階名も徐々に消していく。
- (2) 音の高さに気を付けて指導用CDの範唱を聴きながら心の中で階名視唱をする。
- (3) 息つき(ブレス)の記号について知る。

#### ●評価

**知・技** 旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気づき、ハ長調の楽譜を見て表現する技能を身に付けている。

**思・判・表** 曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりから気付いたことを生かしながら、曲の特徴を捉えた体の動きなどの表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

#### ●これからどうする?●

音楽の授業のはじめや終わりに何度も聴くことで自然に「春の小川」を覚え、歌唱活動が可能になったときにすぐ歌えるようにしておきましょう。また、階名唱の範唱を多く聴くことでハ長調の階名を無理なく読めるようになると考えられます。

### 第3学年 題材2「歌って音の高さを感じとろう」

♪ 楽器と合わせて、明るい声で歌いましょう。「海風きって」「せんりつづくり」(3時間)

#### ●今 何をする?●

★指導用CDの範唱を聴きながら心の中で歌って、前半と後半との旋律の違いに気付いたり、後半の旋律の一部分をつくり歌の旋律と重ねたりして、旋律に着目する学習を充実させます。

☆木琴, 鉄琴, 電子オルガン, 音楽授業支援DVD, (タブレットの鍵盤) など。

☆交代で使うので消毒液を用意します。

#### 1 聴いて, 感じて

##### ◎「旋律の特徴に気付き, 音の高さに気を付けて階名視唱しよう。」

(1) 指導用CDの範唱(以下, 範唱)を聴いて, **ア**と**イ**の旋律の特徴に気付く。

- ・楽譜を見たり**ア**と**イ**の旋律を聴き比べたりして, 範唱を聴き, **ア**は弾むようなリズム, **イ**はのびやかなリズムの旋律であることに気付くようにする。
- ・曲想を感じ取り, 範唱を聴きながら**ア**の旋律を心の中で歌う。

(2) 音の高さに気を付けて階名を心の中で歌い, 鍵盤で確かめる。

- ・教科書 p. 9 のハ長調の音階を参考にして, p. 12 の○の中に**イ**の部分の階名を書き, 心の中で階名視唱する。
- ・準備できる鍵盤楽器の数に合わせて児童を振り分け, 全員で順に**イ**を演奏する。

#### 2 見て, つくって

##### ◎「旋律をつくって重ねよう」

(1) いろいろな音のつなげ方を試し, 旋律をつくる。

- ・教師が**イ**の最後2小節の旋律を新たにつくり, 児童に違いを気付かせ, 意欲と見通しをもたせる。(音楽授業支援DVD参照)
- ・「せんりつづくり」の「れい」を見て, 旋律づくりの方法を知る。
- ・挿絵の中から好きな音を選んでつなぎ, 旋律をつくり p. 13 の○に階名を書き入れる。
- ・つくった旋律を鍵盤楽器で一人ずつ演奏する。

(2) **イ**の旋律とつくった旋律と重ねて演奏したり, 範唱に合わせて演奏したりする。

- ・楽器の数を考えてグループをつくり, **イ**のもとの旋律をグループで演奏し, つくった旋律をメンバーの一人が重ねて演奏する。
- ・**ア**→**イ**→**ア+イ**で演奏している範唱に合わせて, つくった旋律を演奏する。

例) **ア**+<1グループの代表児童がつくった旋律>→**イ**+<1グループで**イ**>→等

#### ●評価

**知・技** 旋律の音のつなげ方の特徴に気付き, 提示された音に基づいて, 即興的に音を選んで旋律をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。

**思・判・表** 旋律や音色を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, どのように音を合わせて表現するかについて思いや意図をもっている。

**態** 旋律の特徴に気付いたり, ハ長調の楽譜を見て演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。

#### ●これからどうする?●

ここでの「せんりつづくり」は挿絵の中から音を選んでつなぐだけでできる, 取り組みやすい活動であり, どんな鍵盤楽器でもつくることができます。次の「せんりつづくり」につなげられるように大切に扱いましょう。

### 第3学年

♪ 曲のかんじを生かして歌いましょう。 「茶つみ」(1.5時間)

#### ●今 何をする? ●

★写真を見たり, 歌詞を黙読したりして様子を思い浮かべ, 曲全体の雰囲気をつかみます。

★拍や旋律のまとまりに気を付け, 手遊びをしながら歌います。

☆電子黒板またはプロジェクター, (手遊び歌のCD「アルプス一万尺」など)

#### 1 見て, 聴いて

##### ◎「歌詞の表す情景を思い浮かべて, 曲全体の雰囲気をつかもう」

(1) 歌詞の表す情景を思い浮かべる。

- ・茶畑の写真を見ながら歌詞を黙読し, 意味の分からない言葉を確認したり, 次ページのイラストや写真を見たりして, 茶摘みの情景を思い浮かべるようにする。
- ・歌詞の言葉を指折り数えて確認し, 7音の調子のよい言葉のリズムを感じるようにする。
- ・1・2番のどちらの歌詞が気に入ったか, 気に入った言葉の横に線を引く。互いに共有できるように, 電子黒板やプロジェクターで拡大した歌詞を教師が示し, 児童は自分の気に入った言葉に手を挙げるようにする。

(2) 指導用CDを聴き, 曲全体の雰囲気を味わう。

- ・感じ取った曲想や曲の特徴を教科書の余白に書く。例) 明るい, のどか, 休符がたくさんあるなど。また, 曲想も共有できるように, 児童の感じ取った言葉を黒板に書き出すとよい。

#### 2 聴いて, 動いて (動いて, 描いて等)

##### ◎「旋律の特徴に気付き, 拍にのって手遊びをしよう」

(1) 指導用CDを何回も聴き, 曲の特徴をつかむ。

- ・児童が気付いた4分休符を○で囲んだり, 付点音符のリズムの感じをつかんだりする。
- ・指導用CDに合わせて手拍子で旋律のリズム打ちをする。4分休符の手の動きを決め, タイミングを揃えるようにする。手拍子は強さを考え, 旋律をよく聴いて打つようにする。
- ・指導用CDに合わせて, 正しい音程で歌えるように, フレーズごとに旋律線を手で描く。また, 音程感をつかめるように上下に手を動かして心の中で歌うようにする。
- ・特に音程を間違えやすい「やまにも」の「やまに」の部分はゲーム的なものを取り入れ, 手の動きを隣どうしで確認したり, 教師の動きの正誤を児童が判定したりするようにしてもよい。
- ・p. 17の手遊びの例を見ながら, ゆっくり手遊びを覚える。今回は一人で行うようにし, 休符の手拍子をみんなで揃えてできるように練習をする。また, ほかに知っている手遊び歌を楽しむようにしてもよい。例) 「アルプス一万尺」(CDをかけるようにする。)

#### ●評価●

**態** 曲想と歌詞の内容や旋律の特徴, フレーズの関わりに興味をもって, 進んで学習に取り組もうとしている。

**思・判・表** 旋律や拍, フレーズを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え, 曲の特徴を捉え, どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

#### ●これからどうする? ●

一人の手遊びを考えて紹介し合うようにします。また, 教科書や指導書研究編図書室の「お茶の話」から取り出して話をして, 児童が次に歌うまでお茶に興味をもち続けるようにするとよいでしょう。

### 第3学年 題材4「拍にのってリズムをかんじとろう」

♪ 2拍子にのってえんそうしましょう。 「ゆかいな木きん」(2～3時間)

#### ●今 何をする?●

★拍を感じ取って2拍子の指揮をしたり、手足や楽器を使ってリズムを演奏したりするようにします。

☆楽譜の黄色いリズムの部分は、実際の「木琴」を使ってリズムを演奏するとよいでしょう。マレットを2本使って両手で演奏する練習をしたり、音高やマレットの材質を変えて表現の工夫をしたりします。

#### 1 見て、聴いて

##### ◎「2拍子の拍にのって、体を動かしてみよう」

- (1) 何拍子の曲なのかを考えながら指導用CDを聴き、「4分の2拍子」を知る。
  - ・第2学年の「はくのみとまりをかんじとろう」の学習を想起し、2拍子の指揮のまねや手遊びをしたりしながら指導用CDを聴く。
  - ・教師が旋律を弾きながら伴奏する場合や、CDの音源の速度を変えられる場合は、いろいろな速度の演奏で指揮のまねをするのも面白い。

#### 2 聴いて、動いて

##### ◎「歌に合わせて、手足や楽器でリズムを演奏しよう」

- (1) 指導用CDを聴きながら、黄色いリズムの部分を拍手や足の踏み鳴らしで表現する。
  - ・教師が旋律を弾きながら伴奏する場合は、速度を変化(遅く、速く、途中で変える、等)させると楽しみが持続する。
- (2) 指導用CDや教師の伴奏を聴きながら、黄色いリズムの部分を木琴で演奏する。
  - ・木琴やマレットが足りないときは、木琴の鍵盤を表現したプリントをつくり、その上を鉛筆等で軽く叩いて演奏し、交替で木琴の演奏を行うようにする。
  - ・木琴で演奏するときは、様々な材質のマレットを使って出せる音を試したり、オクターブを変えて音高を変化させたりして、こざるやこぶたが履く木ぐつの様子を表現できるようにするとよい。
  - ・発展的に、楽譜の白い部分をオルガンや鉄琴で演奏し、フレーズの前半と後半で分かれて交互奏を行うのも面白い。

#### ●評価

**知** 拍子やリズム、旋律と曲想との関わりに気付いている。

**思・判・表** 拍子やリズム、旋律と曲想との関わりから気付いたことを生かして、旋律の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。

**態** 拍子やリズム、旋律と曲想との関わりに興味・関心をもち、互いの音を聴き合って演奏する学習に進んで取り組もうとしている。

#### ●これからどうする?●

リコーダーは頭部管を外して指だけで練習したり、鍵盤ハーモニカは鍵盤を押さえる練習のみを練習したりして、吹奏を伴う演奏活動が可能になったときに改めて復習することもできます。

### 第3学年 題材5「せんりつのとくちょうをかんじとろう」

♪せんりつの音の上がり下がりをかんじとって歌いましょう。「とどけよう このゆめを」

♪せんりつのとくちょうを生かしてえんそうしましょう。「あの雲のように」(合計2~3時間)

#### ●今 何をする?●

★3拍子や4拍子の拍の違いを感じ取って体を動かしたり、曲想とその変化を感じ取って指揮のまねで表現したりします。

☆指揮は手で行いますが、リコーダーのお手入れ棒等を指揮棒に見立てて使ってもよいでしょう。

#### 1 見て、聴いて

##### ◎「3拍子や4拍子の拍にのって、体を動かしてみよう」

(1)指導用CDで「とどけよう このゆめを」と「あの雲のように」を曲想の違いを感じ取りながら聴き、「4分の3拍子」「4分の4拍子」を知る。

・「とどけよう このゆめを」と「あの雲のように」を聴き比べ、2つの曲の違いについて話し合う。

・「とどけよう このゆめを」は4分の4拍子、「あの雲のように」は4分の3拍子であることを知る。(拍子の違いを感じ取りながらも一度指導用CDを聴く。)

(2)3拍子や4拍子の特徴をつかみ、拍に合わせて体を動かしたり、指揮のまねをしたりする。

・拍子の拍の特徴に合わせて、体を揺らしたり、足踏みをしたりする。

・3拍子や4拍子の指揮の仕方を知り、指導用CDの音楽に合わせて指揮のまねをする。

#### 2 聴いて、動いて

##### ◎「曲想や旋律の変化を感じ取って、指揮で表現しよう」

(1)「とどけよう このゆめを」と「あの雲のように」を聴き比べ、曲想にふさわしい指揮の仕方を考える。

・手の動きによってキビキビとした感じを出したり、なめらかな感じを出す方法を知り、指導用CDに合わせ、曲の感じが出るように指揮のまねをする。

(2)「とどけよう このゆめを」の $\boxed{\text{ア}} \rightarrow \boxed{\text{イ}}$ の旋律の変化を感じ取り、指揮で表現する。

・同じ4拍子の指揮でも、手の動きを機敏にしたり、柔らかくしたりすることで、曲の感じの違いを表現できることを知る。

・指揮の仕方についてアドバイスをかけながら、友達と互いの指揮を見合う。

#### ●評価

**知** 旋律の特徴や拍子と曲想との関わりに気付いている。

**思・判・表** 旋律の特徴や拍子と曲想の関わりについて考え、指揮の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

**態** 旋律の特徴や拍子と曲想との関わりが生み出すよさや面白さへの興味・関心をもち、それらの特徴を生かした指揮の仕方の学習に進んで取り組もうとしている。

#### ●これからどうする?●

4分の3拍子、4分の4拍子の曲を教科書や歌集等から見つけ出し、演奏を聴きながら指揮で表現する活動を継続して行っていきます。



### 第3学年 題材5「せんりつのとくちょうをかんじとろう」

♪曲の山をかんじながら歌いましょう。「ふじ山」(1~2時間)

#### ●今 何をする? ●

★歌詞の表す情景を思い浮かべながら指導用 CD の範唱を聴いたり、旋律の特徴や変化を感じ取って手の上げ下げの動きや指揮の動作で表現したりします。

☆指揮は手で行いますが、リコーダーのお手入れ棒等を指揮棒に見立てて使ってもよいでしょう。

#### 1 見て、聴いて

##### ◎「富士山の雄大な景色を思い浮かべながら聴こう」

(1) 歌詞を音読(黙読)し、歌詞の表す情景を理解する。

- ・教科書 p.38~41 の写真を見たり、関連する画像や映像を見たりして、富士山の雄大な景色を思い浮かべるようにする。
- ・富士山について知っていることや、歌詞の比喩表現等について意見を交換したりメモしたりする。

(2) 指導用 CD を聴き、歌詞の内容や旋律について気付いたことを発表する。

- ・拡大楽譜を用意したり、教科書の楽譜の旋律をなぞったりして、旋律の音の上がり下がりなどの特徴をつかむようにする。

#### 2 聴いて、動いて

##### ◎「旋律の特徴やその変化を感じ取って、手の上下の動きや指揮で表現しよう」

(1) 範唱を聴きながら、旋律の抑揚や曲の山を感じ取って手の動きや指揮で表現する。

- ・楽譜を見て旋律の動きを手の上下の動きで表しながら、山々の連なりを表しているような旋律の特徴や、後半の「曲の山」を理解する。
- ・柔らかい手の動きや指揮の形の大きさの違いで旋律の抑揚や音量の変化を表しながら、指導用 CD に合わせて指揮をする。
- ・指揮の仕方についてアドバイスをかけながら、友だちと互いの指揮を見合う。

(2) 旋律の特徴と曲想との関わりや、歌詞の内容と曲想との関わりについて考えを深める。

- ・旋律の動きの面白さや、歌詞の内容と曲想との関わりについて話し合い、そのよさに気付くようにする。
- ・歌詞の表す内容や旋律の抑揚、曲の山など、曲全体の構成を意識してもう一度指揮をする。

#### ●評価

**知** 音の上がり下がりなどの旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付いている。

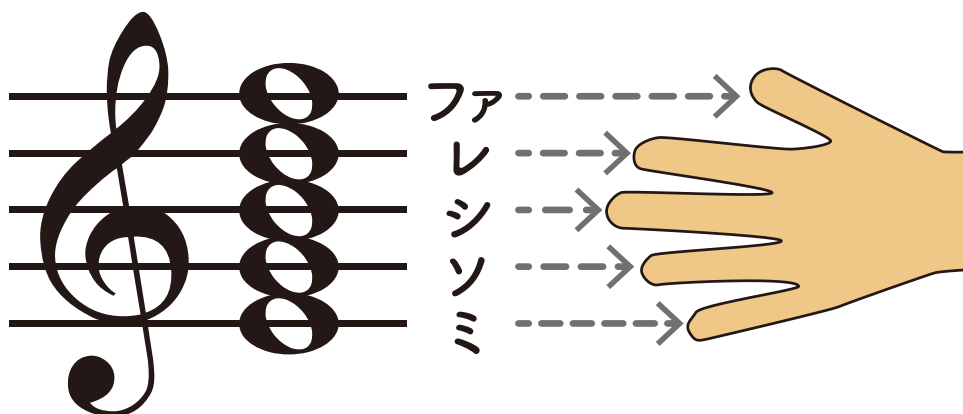
**思・判・表** 旋律の特徴や歌詞の内容、強弱の変化などと曲想の関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

**態** 曲の山を生かして、歌詞の内容や旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を工夫する学習に進んで取り組み、旋律の特徴や歌詞の内容との関わりについて興味・関心を深めようとしている。

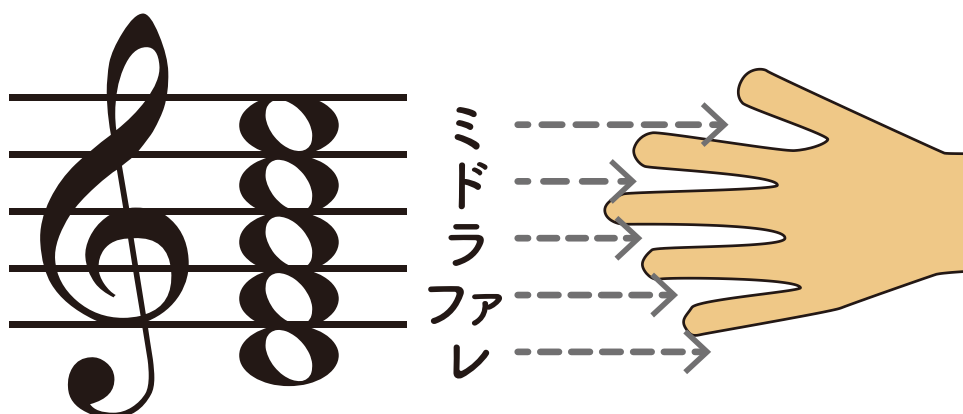
#### ●これからどうする? ●

指揮をする活動は、旋律の特徴を捉え、どのように歌うのかについて考える際に、とても有効に働きます。歌える時期になったら、この経験を生かして曲想豊かに歌ってほしいものです。

# [別紙 1]



第1線～第5線上の音符がそれぞれの指先に対応



下第1間～第4間の音符がそれぞれの指の間に対応

[別紙 2]

